

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

<1988年7月9日創刊>
 <毎月1日発行>
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 eメール shiga.minken@gmail.com
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

尾張北部地域の寺子屋の研究

木全清博

2018年から2年間、名古屋芸術
 大学に勤務してこの3月で終ることに
 なる。せっかく週3日も名古屋に
 いるので、尾張北部地域の丹羽郡、西春日
 井郡の寺子屋を調べた。滋賀県の学
 校や京阪神の教育史を30年以上も研究
 してきたが、自分の生まれ故郷の村や
 学校のこととはまるで知らなかった。

愛知に行く前に、『愛知の寺子屋』
 (風媒社)という1冊の本に出会った。
 著者丹羽健夫さんは尾張北部、西部の
 丹羽郡、海部郡、中島郡、葉栗郡の寺
 子屋では、束脩(入学料)・謝儀(授
 業料)の60%以上が金納形態と書いて
 いた(丹羽郡は76、5%)。師匠への
 謝礼は米や野菜の物納と思いついでい
 た常識が打ち破られた。尾張北部の農
 民は、次世代を担う子どもに読み・書
 き・算を習わせる際、師匠に金銭を払っ
 ていた。天保期の1830年代から安
 政期の50年代がこの地域の寺子屋開業
 のピークだが、幕末期の農民が子ども
 の教育費を金納化できたのは、どうい
 う社会的条件であっただろうか。
 尾張北部の市町村史から近世の村々

のようすを調べてみた。すると名古屋
 城下への青物市場で有名な枇杷島市の
 周辺の蔬菜地帯、一宮の真清田神社前
 の三八市で扱われた木綿物の綿作地帯、
 さらに木曾川南岸の江南から大山の桑
 畑では養蚕地帯という、地域的な分業
 が広汎に展開しており、寛文年間から
 一宮や小牧の六歳市だけでなく、多数
 の在郷町で日市も開市されていたこと

がわかった。尾張北部では貨幣経済が
 農村へ深く浸透していて、畑地で商品
 作物の生産が広まり、私の故郷の岩倉
 市では木綿栽培が普及していた。生ま
 れた石仏村の庄屋は木綿商人も兼ねて、
 村で栽培・収穫した木綿を一宮の三八
 市で取引して証文を残していた。農民
 の手元にも、木綿栽培による貨幣が蓄
 積された可能性は高い。村の稲原寺
 (とうげんじ)という寺子屋では、読・
 書・算の3科を教えており、珠算で
 「八算(はつさん)・見一(けんいち)
 (割算)・相場割(比例計算)・田地
 割」も教えている。村のもう1つの宮
 田平右衛門の寺子屋では、いろはから
 始めて「百姓往来・奉公人請状・商売

往来・田地売買證券」まで習字で書か
 せ、読書では四書(ししよ)五経(ご
 ききょう)を学ばせていた。寺子は謝儀
 を盆・正月・五節句に出している。

愛知県の寺子屋は調査が行われたの
 で研究が深めやすい。寺子屋の研究は
 文部省『日本教育史資料』八(1892)
 明治25年)を基本にする。滋賀県下の
 寺子屋はこれ以外に依拠すべきものが
 ないが、愛知県教育会が1931年に
 県下の全小学校で寺子屋調査した。1
 892年の975校が1931年調査
 で一挙に1870校となった。『愛知
 県教育史』編纂の1973年調査では
 4111校で明治期の4倍と判明した。
 滋賀県は教育史編纂が未だ行われてい
 ないので、残念なことに寺子屋研究は
 深化できない。(きまたきよひろ)

《 今月の紙面 》

- ・【巻頭言】尾張北部地域の寺子屋
 の研究/木全清博……………P1
- ・協同学習で英語学習を/福田香里
 ………………P2.3
- ・入学試験が中学・高校の授業を縛っ
 ているのか?/西村太志……………P3.4
- ・2020年、2月からの高校現場
 のドタバタ報告～コロナ騒ぎ～
 /井口 真紀……………P6.7
- ・理にかなった批判や妥当な指摘
 する力と聴く力/福永秀朗……………P8